TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

王が来られた　あなたが信じるなら…

マタイの福音書 21:18-22

2022 年 6 月 11 日&12 日
余沢　武牧師

I.　はじめに

ご挨拶申し上げます。３週間後、７月からは予約が不要になり、またグループ間の座席間隔が一席でよくなるように引き続きお祈りください。

今までの「王が来られた！」の学びで、イエス様が救世主たる王としてエルサレムに入る様子を見てきました。イエス様は両替人や商人を追い出し、代わりに目の見えない人や足の不自由な人、子供たちを神殿に迎え入れました。

今日は、神の御国のもう一つの側面を学びます。まずお祈りしましょう。

II.　あなたが信じるなら

マタイ 21:18-19

「朝早く、都に帰る途中、イエスは空腹を覚えられた。 道端に一本のいちじくの木があるのを見て、近寄られたが、葉のほかは何もなかった。そこで、『今から後いつまでも、お前には実がならないように』と言われると、木はたちまち枯れてしまった。」

この日の朝、エルサレムへの道中、イエス様はイチジクの木からイチジクの実を取ろうとされました。ところがこの木は葉ばかりで実がなっていませんでした。そこでイエス様がこの木を呪うと、イチジクの木は枯れてしまいました。なんと不思議なことでしょう。
さらにマルコはこの出来事について詳しく説明して書いています。マルコによると、イエス様がイチジクの木を呪ったのは、神殿に行って両替人や商人を追い出す前でした。そして弟子たちがこのイチジクの木が枯れているのを見たのは、神殿を訪れた日の翌朝でした。
ですから、この一件はイエス様の「宮清め」への、ある意味前奏曲のようなものでした。

この一件を理解するには、ユダヤ人にとってイチジクの木が何を意味していたかを知る必要があります。旧約聖書では、神の民イスラエルは、しばしばイチジクの木またはブドウの蔓に喩えられています。そしてイスラエルへの裁きは、しばしばその壊滅に喩えられているのです。

詩編 105:33 前半：　「ぶどうといちじくの木を打ち」

エレミア 8:13 後半：　「しかし、ぶどうの木にぶどうはなく いちじくの木にいちじくはなく 葉はしおれている。私が彼らに与えたものは、彼らから消え去っていた。」

つまり、ここで私たちは、イスラエルを意味するいちじくの木を通して、預言が成就するのを見ているのです。

さて、イチジクという植物はとても変わっています。イチジクは、葉より先に緑色の実を実らせます。この緑色の実は食べることはできますが、美味しくはありません。葉は、実が生った後に生えてきます。それから実が熟して、美味しくなります。

ですから、イチジクの木に緑の葉が茂っていたら、当然実が生っているのが期待されます。でもこのイチジクの木は違いました。見た目だけは整っていましたが、実は一つも生っていませんでした―不良の木だったのでしょう。

イエス様は、これを「イスラエル」になぞらえました。イスラエルの民は、表面上は神様に大いに献身していました。献げ物をしに神殿に行き、神殿で素晴らしい活動を続け、ファリサイ派を筆頭に律法を一字一句守ろうとしていました。しかしそれは全て見た目だけで、実がありませんでした。

彼らは、たくさんの行いに勤しんでいましたが神様が彼らに実らせて欲しかったものを育んでいなかったのです。

律法の専門家が、最も重要な掟はどれかとイエス様に聞いたとき、イエス様がなんと答えたか覚えていますか。イエス様は、最も重要な掟は

ひとつではなく、二つあると言われました。二つでワンセットです。

マタイ 22:37-40 ：「イエスは言われた。『心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。これが最も重要な第一の戒めである。第二も、これと同じように重要である。隣人を自分のように愛しなさい。この二つの戒めに、律法全体と預言者とが、かかっているのだ。』」

この「律法全体と預言者」とは何でしょう。これは、聖書（旧約聖書）全体を意味するのに当時使われていた言い回しです。イエス様は「聖書の全ては、神を愛し、他者を愛することに尽きる」と言っているのです。

十戒もそれに尽きます。
最初の４戒は、心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして神を愛することについてです。
残りの６戒は、隣人を自分のように愛することについてです。
聖書にあるその他の教えは、どうしたらそれを実行できるかを私たちに教えてくれます。
しかしここで一つ問題が起きました。ファリサイ派が、律法のチェックリストを作ったのでした。そして、それら全て守っていました。神殿での儀式や慣習についても同じことが言えます。
しかし彼らは 心を尽くして神を愛しておらず、自分のように他者を愛していませんでした。
彼らはいろんなことをそつなく行っていました。でも彼らは実をつけることのない葉っぱばかりのイチジクのようでした。
一方、イエス様のご性質、全人生は下記に尽きました。

1 心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして神を愛する。

2 隣り人を自分のように愛する。この方のなさることは全てが「実」でした。

クリスチャンの皆さん、気をつけてください。「新しい神の民」として、私たちも実を結ぶように召されているのです。それを忘れてはいけません。私たちの究極の目標は、完璧な家族や完璧なキャリア、完璧なミニストリー、完璧なミッションなどではありません。これらはみんな良いものではありますが、私たちの究極の目標は「イエス様の完璧なご性質」＝果実です。
数年前、私が教会で監督していたプロジェクトを全て確実に実行できるように、お手伝いをしてくれた方がいました。そのプロジェクトを正確に実行するには、段階ごとに守らないといけない締め切り日がありました。全て順調に実行されていました。
そして最後にもう一つだけ、規定の日時までに終えなければいけない段階がありました。これさえ終えれば任務終了。手伝ってくれる彼は喜んでその仕事を引き受けてくれました。私はほっとして、ご機嫌でした。ところが！その後何が起こったと思いますか？その仕事がなんと最後の段階が忘れられていたのです。彼が忘れてしまったのです。
でも私は激怒しました。そして、それをお手伝いの方にも伝えました。かなり意地の悪いことも言いました。
後になって、私は神様によって罪を深く気づかされました。私は自分自身に問いかけました。「イエス様だったら私と同じような反応をされただろうか。」答えは「とんでもない！」でした。私は悔い改めました。そして、お手伝いをしてくださった方に赦しを求めました。
その日、私は「完璧」が目標であってはいけない、ということを学びました。それどころか私の目標は常に「イエス様のご性質」でなければならないのです。 その二つのどちらかを選ばなければならないなら、毎回「イエス様のご性質」を取り、結果は神様の御手にゆだねなければいけません。でなければ、イエス様も果実もありません。
完璧な家族、キャリア、ミニストリーやミッションを目標にしたら、私たちは「イエス様のご性質」を見失います。でも私たちが常に「イエス様のご性質」に集中するなら、私たちの家族もキャリアも、ミニストリーもミッションも実り豊かになるでしょう。神様の喜ぶ豊かな実りを与えてくださるのです。

イスラエルの民はそれに気が付きませんでした。行いに忙しく、果実を見逃してしまったのです。

(2) 信仰を持てば

マタ 21：20-22:「弟子たちはこれを見て驚き、『なぜ、たちまち枯れてしまったのですか」と

言った。イエスはお答えになった。『よく言っておく。あなたがたも信仰を持ち、疑わないならば、いちじくの木に起こったようなことができるばかりでなく、この山に向かい、『動いて、海に入れ』と言っても、そのとおりになる。信じて祈るならば、求めるものは何でも得られる。』」

弟子たちはまだイエス様が意味されることが分かりませんでした。そしてイエス様がイチジクの木をあっという間に枯らしたことに驚いていました。そこでイエス様は、信仰を持てば、弟子たちにも同じことができると言われました。

ここで忠告です。イエス様は、私たちが神は祈りに応える方だと強く信じれば、神様は何でも下さると言っているのではありません。神はあえてそうしないことがあります。

ヤコブ 4:3：「求めても得られないのは、自分の欲望のままに使おうと、よこしまな思いで求めるからです。」
1 ヨハネ 5:14b-15「何事でも神の御心に適うことを願うなら、神は聞いてくださる。これこそ私たちが神に抱いている確信です。私たちは、願い事を何でも聞いてくださると知れば、神に願ったことは、すでにかなえられたと知るのです。」

しかしながら、私たちが真に神様と主の御言葉を信じ、主に仕えるために生きているなら、そして私たちが主の御心に適うことを願うなら、神様は私たちのどんな祈りにも応えてくださるのです。

イエス様は、自分がイチジクの木を通してイスラエルの運命を預言することが神の御心であることを知っていました。だから、イチジクの木はイエス様の命令によって枯れたのです。
イエス様はゲツセマネで「父よ、できることなら、この杯を私から過ぎ去らせてください。」と祈られました。これは十字架での苦しみを避けさせてほしいという意味でした。しかしイエス様が十字架にかかることは御父の御心だったので、イエス様は十字架にかけられました。
興味深いのは、イエス様が、神の御心ならば、弟子たちが山に向かい、「『動いて、海に入れ』と言っても、そのとおりになる。」と言われたことです。

さて、「山を動かす」というのは「不可能に思えることをする」という意味の当時よく使われた喩えでしたが、ここでは実は文字通り山を動かすことを意味していたと思われます。

イエス様が「この山に」と言ったとき、実際に彼らの前には山がありました。シオンの山つまり神殿の丘です。

イエス様は、ここで神殿についての神様の御心を明らかにされていたと思われます。弟子たちがシオンの山にある神殿が倒れて崩壊するようにと祈ったなら、そのようになっていたのでしょう。神殿を取り壊すのが神の御心だったからです。

でも神殿がなくなったら、ユダヤ人たちはどうしたらよいでしょう。神殿は彼らが神に会う場所でした。また神殿は罪を赦してもらう場所でもありました。神殿がなくなってしまったら、どうすればいいのでしょう。

22節でイエス様が言っています。「信じて祈るならば、求めるものは何でも得られる。」

イエス様が私たちの罪を償う献げ物であると信じ、イエス様を私たちの主として救い主として受け入れるなら、神の霊が私たちの内に住まい、私たちはどこででも祈ることができるのです。

(3) まとめ

私たちの祈りが、神の御心に適った祈りなら、祈りは全てこたえられます。

神様がイスラエルに一番求めておられたこと：果実＝「イエス様のご性質」を実らせること。つまり神と他者を愛すること。そして真に神の民になること。
神様が私たちに一番求めておられること： 私たちが真に神の民となること。つまり私たちが実を結び、家庭で、職場で、学校で、教会で、奉仕で、ミッションで「イエス様のご性質」を表すこと。

私たちにそれが可能でしょうか。いいえ！だからこそ、私たちにはイエス様が必要なのです。

十字架を通してのみ、私たちの罪、つまり神と隣人への愛の不足が赦されます。
祈りを通して、私たちの内に住む主の聖霊が、私たちの内に「イエス様のご性質」を育ててくれます。そして私たちは実を結び始め、神と隣人を心を尽くして愛することができるようになります。それが神の御心であるからです。

- 私たちの一番の目標は、実を結ぶことです。まだイエス様をあなたの個人的な主として、救世主として受け入れていないなら、今日、受け入れましょう。あなたも実を結ぶことができるように。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg2422jp



★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月10日（日）13：30～17：30
https://t-b-c.us/classes

奉仕者募集中！

1．週末礼拝メッセージ翻訳者（数名募集）
1か月半に1度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語を日本語へ翻訳します。

2．日本語字幕オペレーター（4名募集）
月1回～各礼拝の時間（特に3時、5時の礼拝募集）の字幕のページをめくる奉仕です。英語を聞いて日本語がどの翻訳部分かわかる程度の英語力が必要です。操作は矢印キーを押すだけの簡単なものです。

連絡先（ひろみ）：
hiromik@tokyobaptist.org

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

クラス申込み
http://t-b-c.us/classes